全国障害者問題研究会の研究誌

障害者問題研究

第 51 巻 第 2 号

Vol.51 No.2

特集

障害者権利条約 総括所見の焦点と課題 を読む会

日時　9 月 4 日（月）19 時～21 時

zoom ミーティングによる開催

障害者を排除する日本社会の現実をリアルに、
かつ根底からつかみ、
尊厳の尊重と平等の実現に向けて力を合わせましょう

【主な発言者】

藤井克徳（きょうされん専務理事）

白沢　仁（障害者の生活と権利を守る全国連絡協議会副会長）

越野和之（全障研全国委員長）

薗部英夫（全障研副委員長）

■そのほか執筆陣のコメント■

司会・進行　**中村尚子**

■参加者の意見交流■

〇参加費無料。お手元に当該号をご用意ください。
〇読む会参加申し込みフォーム（右）から注文できます。

参加申込

https://form.run/@shomonken51-2

問い合わせ　全障研事務局　info@nginet.or.jp

特集にあたって

中村尚子（本誌編集委員）

障害者権利条約採択から 7 年が経過した 2013 年 12 月，日本は同条約を国会承認，翌 14 年に批准に到った．そして 2022 年 9 月，締約国に義務づけられた条約実施状況の政府報告（2016 年 6 月提出）を審査した障害者権利委員会から，審査結果文書（concluding observations）を受け取った．「総括所見」と訳されるこの文書は，「他の者との平等を基礎として」障害者の権利を保障しようとする条約の目的に照らし，すべての分野において看過できない課題があると指摘，法整備に後ろ向きな日本政府の姿勢を厳しく批判する．

本特集は，総括所見を深く読み解くことが，条約のめざす社会を実現する国内の取り組みの力になると考え企画した．特集を以下のような論文と報告，そして座談会で構成した．

まずなぜ日本政府への総括所見が現状を鋭く衝く内容となったのか，そこに至るプロセスの重要性に注目した薗部論文である．国内でねばりづよく取り組まれた障害者団体による実態報告（パラレルレポート）や国連でのロビー活動に基づいて論じている．つづく佐藤論文は，総括所見の内容を簡潔に示し，権利委員会と日本政府の間の認識のずれを審査における応答で明らかにしている．荒川論文は，総括所見の中でも関心の高かった「教育」に焦点をあてている．インクルーシブ教育の理解には，「すべての学習者のニーズに応える」という広い視野を欠いてはならないことを学ぶことができる．

報告は総括所見の中から 3 つのことに絞った．一つめは国際人権規約をはじめとする先行する人権条約で共通して求められている国内人権機関の問題である．藤原報告は，2008 年に国内人権機関設置要綱案を公表するなど積極的に取り組んできた日本弁護士連合会による研究成果を含んで課題を提起している．二つめは，総括所見中もっとも厳しい指摘が多い精神障害分野を分析した，やどかりの里の増田報告である．いまなお強制入院等の人権侵害が続くこの分野の改善について歴史的経過を踏まえ報告している．三つめに「労働及び雇用」に関する赤松報告である．総括所見の指摘だけでは十分とはいえない福祉的就労をめぐる国際的議論を整理し，根底にある労働分

野の障害者排除を問うている．

これらの論稿に加えて，障害者権利保障運動に全障研とともに取り組んでいる団体のみなさんとの座談会を行った．権利侵害が生じる構造，障害者の権利を人類の人権発展の道程に位置づけること，そのための人間と障害と社会の関係性についての議論の必要性など，各分野の課題を串刺しにするような話し合いが展開されている．ここからさまざまな提起を受け取っていただけると思う．

本特集を手がかりに，総括所見を読み，学習を広げ，改革につなげていくことをめざしたい．

なお，権利条約も総括所見も原文は英語である．条約は批准と合わせて公定訳が，総括所見は外務省仮訳が公表されている．しかし，条約を理解する上でカギとなる言葉にどのような日本語を用いるかは合意があるわけではない．課題の一つである．本特集では原則として執筆者の意向を尊重している．

（なかむらたかこ）

■この号のもくじ■

特集にあたって 中村尚子　1
障害者権利条約実質化のプロセスと到達点●薗部英夫　2
障害者権利条約総括所見（勧告）の焦点●佐藤久夫　10
インクルーシブ教育の根本理念と新たな課題●荒川智　18
【座談会】
総括所見の焦点と権利保障運動の課題●藤井克徳・白沢仁・越野和之　26
【報告】
国際人権条約における国内人権機関の意義と日本の現状●藤原精吾　38
精神障害のある人の人権保障，精神医療改革に総括所見（勧告）を生かす●増田一世　46
障害者権利条約第 27 条とシェルタードワークショップの課題●赤松英知　52
連載　実践に学ぶ
特別支援学校高等部の実践　今日は何かな？―気持ち弾む，M さんとの宿題のやり取り　林　陽子　58
【林実践に学ぶ】川地亜弥子　64
親であり福祉職員である私の実践　障害者とその家族の“じりつ”を考える　清時忠吉　66
【清時実践に学ぶ】児嶋芳郎　72
連載　ワイドアングル
教育における修復的正義の現在　竹原幸太　74

●読む会へのおさそい●

国連の障害者権利委員会は、総括所見で、障害者の権利に後ろ向きな日本政府への懸念と勧告を示しました。総括所見を読み解いて、運動の中で、実践の中で、生かしていくことが求められます。いっぽうで障害児学校・学級や、働く場、暮らしの場への勧告はどう考えたらいいのか、という声も聞こえてきます。人類の人権保障の到達をどのようにみるかが大切な視点です。障害者の権利保障のために私たちが営々と努力して創りあげてきた実践の到達を、総括所見を受けてさらに発展させていきたい…そのための第一歩として、読む会で学び語り合うことがきっと役だつことと思います。

まず総括所見の内容を知りたいという人も、ご自身の実践や生活と権利条約や総括所見がどのようにつながっているか考えたいという人も、この特集からいっしょに考え合いましょう。

読む会にご参加ください。

読む会はオンラインリモートです

『障害者問題研究』は、全障研の研究誌として、毎号、特集はじめ発達保障実践を深めていくための記事を掲載しています。全国各地から、教員・療育・成人分野・当事者・家族などさまざまな立場、職種がひとつの場に集い、学び合い、語り合います。

お求めは

全障研出版部
新宿区西早稲田 2－15－10 西早稲田関ロビル 4 階
電話（03）5285－2601・FAX（03）5285－2603　nginet.or.jp